

## 荘川さくら街道・佐藤桜について

国道156号線にはかつて、この道を走る路線バスが存在した。その名を国鉄バス名金線といった。名前の通り名古屋と金沢を結ぶ路線だった。太平洋につながる名古屋市と日本海に面する金沢市を結ぶ路線で、距離にして266キロ、停留所数は150を超えるという路線バスでは規格外の長距離を誇り、当時は国内最長路線だったが2002年にその役割を終えた。

このバスの車掌だったのが佐藤良二さんで、ある時、佐藤さんは、このバスが走る路線沿いに咲く荘川桜に地元の年老いた女性が感涙している姿を見た。

荘川桜は、日本で初めての大規模なロックフィル式ダム、御母衣ダムの底に沈んだ村の寺から、この国道沿のダム湖畔に移植された樹齢450年以上の巨大なエドヒガン桜の老木2本であった。

この婦人は、移植したらおそらく枯れるだろうと言われた荘川桜が、見事に花を咲かせている姿を見て多分に感動を覚えていたのでしょう。

桜の花にも、こんなにも人を動かす力があることを知った佐藤さんは、「太平洋と日本海を桜でつなごう」と思い立ち、この路線伝いを中心に、12年間で約2,000本の桜を植え、1,977年に志半ばにして47歳でその生涯を終えた。

佐藤さんの壮大なロマンは、その後NHK、民放などの番組でも紹介され、映画にもなった。更に「さくら道」とのタイトルで書籍化もされている。

佐藤さん所縁のさくらは、金沢近郊でも1,500本目といわれる兼六園の佐藤桜をはじめ、金沢市広岡町の現JRバス関係地、森本地区の小学校校地など、各所に植えられていると言われる。

現在、この国道は、通称「さくら街道」として毎年、名古屋～金沢間を走る「さくら道国際ネイチャーラン」の開催など、今でも広く沿線、地域の人々の行事の中に親しまれ愛され根付いている。

この「さくら街道」を、この度、岡崎市ウォーキング協会が4年にわたるシリーズのウォーキング事業として取り組み、今回にて全行程を踏破されたことを心よりお祝いを申し上げますと共に、あらためて佐藤良二さんの大きな夢に再び触れる機会があつて、岡崎・金沢両観光交流都市間の交歓、ウォーキング仲間としての交流など、非常に意義深い事業である思います。

(資料・文責 石川県W協 東)